

ポスター5

ポスター発表(実践)

第7回「外国につながる子どものことばを育てるワークショップ」実践報告
—文字・語彙を活かす—

大津美樹、田敬雲、王丹叶、李櫻柳、唐姣姣(お茶の水女子大学)

実践概要：特徴と目標

本ワークショップ(WS)では、日本在住の外国につながりを持つ子どもに対し、日本語と継承語の発達を促す支援を行っている。子どもが継承語に接する機会を増やし、自身が持つ文化的背景を感じられる場とすることを目指している。また、継承語と日本語のインプットを与え、アウトプットを促すような活動を行うことで、両言語への関心をより高めることを目的としている。

実践の内容・流れ

本WSは年2回のペースで行っており、既に7回行った。第7回WSは休日に2時間程度行い、参加者は中国につながりを持つ子ども6名(3歳~10歳)とその保護者であった。今回のワークショップは、両言語での「大型絵本読み聞かせ」から始まり、ウォームアップ活動として「わなげゲーム」を行い、その後休憩を経てメイン活動である「宝さがしゲーム」、さらに発表会・表彰会という順で行った。子どもたちが新たな文字・語彙に触れ、また継承語と日本語をバランスよく使用できるよう、ゲーム活動の実践を心掛けた。

活動の振り返り・今後の展望

今回は参加した子どもの文字・語彙習得レベルの差による影響を最小限にするため、ウォームアップ活動においては初めに使用語彙のインプットを行う工夫をした。また活動全体の繋がり、文字・語彙習得における繰り返し学習の大切さを意識し、複数の活動で同じ語彙に触れられるよう配慮した。また、発表会では、今回の活動で使用した両言語の語彙を一人一人発表し、子どもたちが少しでも語彙を覚えられていたことは一つの大きな成果であった。一方、ウォームアップ活動では子どもとその保護者が一緒に活動を行う予定であったが、上手くできず反省点が残った。

これからは、今回の反省点を見直すことを含め、継承語そのものだけでなくその背景にある文化要素もより取り入れられるように活動案を考えていきたい。また、開催数を増やすことや集中講座のような新しい活動の形も検討していきたいとも考えている。